

飛躍

令和元年 7月19日
生徒指導部通信NO.46

命の大切さを考える

7月に所沢市内の中学校で男子生徒が同級生を刺殺する痛ましい事件が発生しました。また、いじめや自殺、交通事故など深刻な社会問題となっている現状を考えた時、「命の大切さ」をどのように伝えていくかが学校はもちろん、家庭や地域社会の課題となっています。4年前にも同じテーマで「飛躍」を出しました。桜高生の皆さんに「命の大切さ」を改めて一緒に考えて欲しいと思い、当時紹介した詩を再掲載します。下欄の詩をじっくり読んでみて下さい。一人一人が自分の命を大切に、他人の命を大切にすることができれば悲しい事件や事故、いじめ問題はなくなると思います。

もしも周りの大人に相談できずに困ったり悩んだりした時は、たくさん相談できる場所もあります。そのひとつとして「24時間子どもSOSダイヤル」を掲載します。まずは相談をしてみてください。

明日から夏休みです。ぜひ桜高生のみなさんには大切な時間、大切な命を無駄にしない過ごし方をして欲しいと思います。

「命」 宮越 由貴奈(小学4年)

命はとても大切な
人間が生きるための電池みたいだ
でも電池はいつか切れる
命もいつかはなくなる
電池はすぐにとりかえられるけど
命はそう簡単にはとりかえられない
何年も何年も
月日がたってやっと
神様から与えられるものだ
命がないと人間は生きられない
でも
「命なんかいらない。」
と言って
命をむだにする人もいる
まだたくさん命をつかえるのに
そんな人を見ると悲しくなる
命は休むことなく働いているのに
だから 私は命が疲れたと言うまで
せいっぱい生きよう

【紹介】

平成16年の4月から6月まで東日本放送(テレビ朝日系列)で「電池が切れるまで」というドラマが放送されていました。このドラマは、長野県豊科町にある長野県立こども病院の院内学級の子供たちが綴った詩や手記をまとめた本『電池が切れるまで』を基にしてつくられました。ドラマの中で何度も主演の財前直美さんが読んでいた「命」という詩に、感銘を受けた方も多いと思います。

「命」の詩を書いた宮越由貴奈さんは、5歳の時に神経芽細胞腫と診断され11歳で亡くなりました。



著書「電池が切れるまで～子ども病院からのメッセージ～」より引用

通話料無料になりました

24時間子供SOSダイヤル



0120-0-78310

なやみいおう

各教育委員会等によって運営されている、全国共通のダイヤルです。